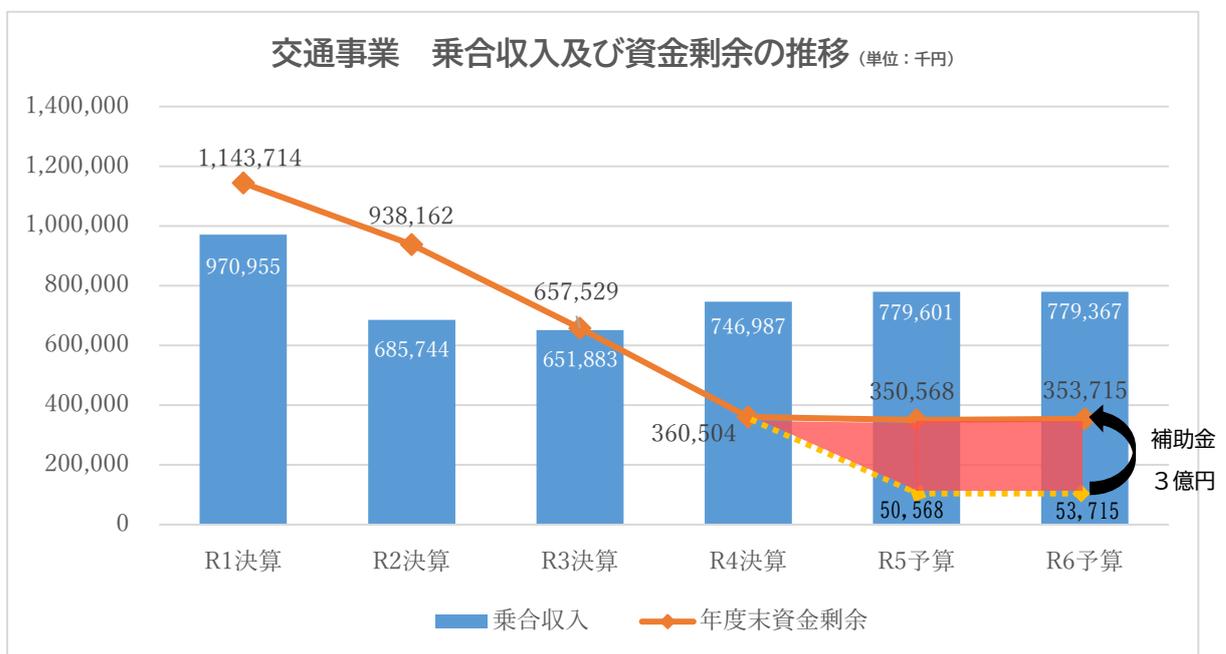


## 交通政策について (市営バス事業の現状、ダイヤ改正の実施等について)

### I 市営バス事業の現状

#### 1 交通事業の現状

令和5年度は、5月に新型コロナウイルス感染症の位置づけが第5類になったものの、乗合収入が令和元年度と比較して、約2割減で推移しており、令和6年度の第1四半期においても同様の状況で、コロナ禍前の水準まで回復せずに推移している。



#### 2 令和5年度の利用状況

##### (1) 乗合バス全体の現状

令和5年度は、乗合バス全体として、100円の収入を得るために約123円の費用を要している状況である。(令和4年度：約132円)

##### ■ 系統ごとの「1便当たりの利用者数」及び「営業係数」

別紙「令和5年度 利用状況」のとおり(交通局ホームページでも公開)

※「営業係数」とは、路線ごとの黒字・赤字を示す指標

→ 100円の収入を得るための経費を示し、当該係数が100を超えると赤字

##### (2) 系統別の状況

令和5年度は、全76系統のうち、黒字が14系統(18.4%)、赤字が62系統(81.6%)という状況である。

項目	令和5年度	令和4年度
黒字系統数	14系統(18.4%)	13系統(16.0%)
赤字系統数	62系統(81.6%)	68系統(84.0%)

### 3 市営バス事業あり方・役割検討会議の開催

#### (1) 目的

市営バス事業を取り巻く様々な経営課題について、有識者等に意見聴取を行うために、「市営バス事業あり方・役割検討会議」を開催する。

#### (2) 構成員（案）

有識者（学識者、コンサル、専門家）、地域住民、利用者、経済界、交通事業者

#### (3) 開催時期

令和6年10月頃から開催

#### (4) 会議内容（案）

- ア 第3次北九州市営バス事業経営計画の取組内容及び結果の評価・検証
- イ 増収対策（乗合バス利用者の拡大）
- ウ 利用者サービスの向上
- エ 筋肉質な経営体質への転換（運行エリアの見直し、適正な運賃体系）
- オ 運転者確保